

笑顔のために



VTV スタジオ SUB での1枚。左から2人目が筆者。



来たかった街ハノイ、でも短期のため訓練がなく、全くベトナム語が出来ない情けない赴任。新しく古い街、高層ビルの角を曲がると突然現れる旧態依然とした街並み。もう日本では見られなくなった風景…。歩道には物売りが店を広げ、路上営業の大众食堂。なんか懐かしくて…面白くて…見とれていると、バイクがクラクションと共に突っ込んで来る。路上レストラン？では何を食べていいかわからず、人が食べているものを指さし注文する。値段なんかおばちゃんに言われるまま…。そんなこんなでハノイ暮らしが始まった。

2015年9月30日ハノイ着、10月2日配属先へ挨拶、5日には通常シフトに入り活動開始、結構タイトなスケジュールだった。配属先はベトナムテレビ国際放送局VTV4。前職はテレビ朝日系列の地方局に勤務、広告代理店制作部を経て開局と同時に入社。定年に至るまで報道から番組制作、TVCMに至るまで制作に関するほぼ全てを担当してきた。

配属先VTV4はフランス語、英語、ロシア語、中国語、そして日本語の5チームがそれぞれに番組を作っている。私のデスクの左側には日本語、右側にはロシア語のチーム。夕方ともなるとロシア語のアナウンサーが、けたたましいスピードでニュース原稿の練習を始める。けたたましいというのは、日本のアナウンサーが読む3倍のスピードを想像して欲しい。

さて、我が日本語チームが制作しているのは、「JAPAN LINK」という週一回放送の日本語30分番組。「週刊ニュース」、身近な経済の話題を伝える「ビズフォーカス」、日本とベトナムにかかわる人や物を紹介する「カレイド スコープ」、ベトナムの文化や芸術を紹介する「ドア トゥ ベトナム」のコーナーで構成されている。4人のスタッフで企画から取材、スタジオ収録、編集完パケまでこなしているが、近い将来ディレクターにしたいという構想もあるらしい。そうなると取材体制、MCや編集などいろいろな問題が出てくるが、取り敢えず

今はアナウンサーの日本語発音と原稿の添削、取材の仕方やスタジオでの話し方…等々、身近な問題から取り組んでいる。

まずは今週分のネタ探し、スタッフは持ち回りで毎週ディレクターが入れ替わり、ディレクターは金曜日のスタジオ収録までのスケジュールを決め、取材や編集MCなどの担当を決めていく。ここで出てくるのが、日本のやり方とのギャップ。私はベトナムで3ヶ国目になるがこの国でも同じことを感じた。しかし、こればかりはどうしようもない。取材先での急な変更やアクシデントへの対応、取材現場での仕切りや根回し等、くどい位に念を入れて準備をした我々とは大違いだ。

日本の放送現場との違いは他にもある。ベトナムの前にはインドネシアの放送大学で番組制作を教えていた。大学には地元テレビ局から派遣されている非常勤講師も在籍している。インドネシアではタイムキーパー無しでのスタジオ収録、または生番組を放送している。我々日本の放送局は、対談生番組でも1秒の狂いもなく終わらせる技術を持っている。インドネシアにはそれがなく、生番組で出演者が勢いに乗って喋り続けると終わらせることができない。仮に出演者が10分余計にしゃべり続けると、次の番組は10分遅れて始まる。だからインドネシアの番組表には分刻みの表示が出来ない。

ある日の公開講義で、タイムキーパーの必要性を話したら、国营テレビの非常勤講師が、「我々はタイムキーパーなどいなくても毎日の番組作りに不便さを感じたことはない、という事は我々の制作技術の方が日本より高いという事になる」と発言し、学生から拍手喝さいを浴びた。これには日本で放送技術を研修してきた、私のカウンターパートも頭を抱えてしまった。同じくベトナムでも、スタッフに必要性を説いた事があるが、誰も興味を示さなかった。

今までの経験で学んだことは、説明はしても押し付けけないという事。いま私の最大の目標は話し方の訓練と原稿。ベトナム特有のイントネーションと発音がどうしても外国人が話す日本語になってしまう。これを少しでも日本人が聞きやすい発音にする事。インターネットから引用した文章に、自分たちで加筆した日本語と実際のギャップの是正。これらが一朝一夕に直るものではないことは重々承知しており、同じことを繰り返しながら一歩ずつ進んで行こうと思う。大晦日は22時まで仕事、元日はスタジオのため7時半出勤。久しぶりに現役時代を思い出しながら楽しんでいる。

● JICA シニア海外ボランティア 大嶋 憲輝 (おおしまけんき)

福島県出身。広告代理店制作部に勤務後、福島放送入社。ディレクター、プロデューサーとして番組制作を担当。定年退職後、2008年モンゴル、ラジオ・テレビ大学で撮影技術を担当する。大学では初めての「TVCM制作基礎」のTEXTを作成。2011年、インドネシア放送大学(MMTC)へ赴任、番組制作を担当。大学発コミュニティTV放送発足に関わり、第三国研修では東南アジア5ヶ国のTV局員にドキュメンタリー番組制作の専任講師を務める。